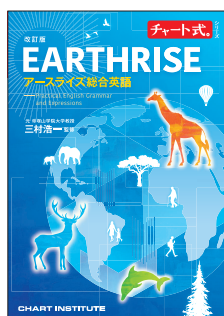


● EARTHRISE シリーズ 文法参考書のご案内 ●



11082

改訂版 チャート式シリーズ

EARTHRISE

アースライズ総合英語

—Practical English Grammar and Expressions

元 帝塚山学院大学教授 三村 浩一 監修

※ 2025 年 10 月改訂版発行予定



参考書の
詳細は
こちら！

A5 判／648 頁(予定)／別冊解答(80 頁)／暗唱例文集(80 頁)／**別冊 4 技能連携ハンドブック**(80 頁)
数研テストマスター 完備／デジタル副教材(エスビューア；別売(予定)) ⇒ p.70

◆QR コードから以下の活動が可能！

文法解説動画の視聴／基本例文の音声再生／〈数研発音マスター〉を用いたスピーキング練習

◆チャート×ラボから **Google フォーム**／**Microsoft Forms テストデータ**(レディメイドタイプ)と
基本例文の音声データをダウンロードしていただけます。

本書の特色

1. 文法を 4 技能に活かすことを大切に考えた参考書です

◆本編は、使用レベルを意識した〈2-Stage〉構成。

学年や目的に応じて必要な Stage を効率的に学べます。

◆別冊付録「4 技能連携ハンドブック」で、文法だけでなく、**Speaking／Listening／Reading／Writing** の基礎を確認。4 技能を用いたさまざまな活動の下支えとなります。

⇒詳しくは p.63

2. チャート式シリーズのよさを存分に活かし、生徒さんの自学を応援する参考書です

◆視覚的な理解を促す**図解**や**イラスト**，**イメージ図**などを豊富にご用意。

◆ルールや形の理解だけにとどまらない，**生徒さんの疑問に答えるコラム**も満載。

◆QR コードから，気軽に**例文音声**や**解説動画**にアクセス。**数研発音マスター**で
スピーキング練習も可能。

3. 教科書 *EARTHRISE English Logic and Expression I Essential* と連携しています

⇒ pp.34～35

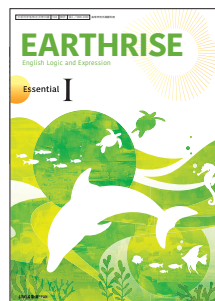
◆教科書の **Grammar for Expressing Yourself** と扱う文法配列・例文が同じなので，
並行しての学習がしやすくなっています。

◆**Grammar for Expressing Yourself** で学んだ文法事項を表現に活かすためのコラム
Tips for Expression が，**文法と表現の橋渡し**をします。

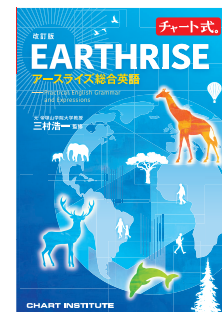
参考書『チャート式シリーズ EARTHRISE 総合英

語』との連携で、文法学習がさらに充実！

『改訂版 チャート式シリーズ EARTHRISE 総合英語』とその準拠シリーズでは、表現活動の支えとなる文法をしっかりと学べます。教科書と文法配列や例文がそろっているので、教科書と併用することで、文法学習をさらに充実させることができます。



教科書 EARTHRISE
English Logic and Expression I
Essential



参考書 改訂版 チャート式シリーズ
EARTHRISE 総合英語

※ 2025 年 10 月改訂版発行予定



参考書の詳細は
こちら！

参考書解説

教科書 p.18 Grammar for Expressing Yourself (本課：文法解説)

Grammar for Expressing Yourself Part 1
時を表す(現在・過去)

1 現在のことを表す(現在形) pp.148-149 BS

現在形は現在を中心として、過去から未来へと続く幅のある時を表す。

過去 現在 未来

1 Mika **has** two dogs. 16

2 My sister **takes** dance lessons on Fridays. 17

3 The sun **sets** in the west. 18

1 現在の状態：「～である、～している」 現在の状態を表す。

2 現在の習慣：「(いつも、よくなど)～している」 習慣的に繰り返し行われる動作を表す。
● いっしょに使う語句 ▶ always, usually, often, sometimes, every morning [week] など

3 変わることのない事実・真理

2 現在進行中の動作を表す(現在進行形) pp.148-149 BS

4 What **are** you **doing**? — I'm **looking** at some photos on my smartphone. 19

4 現在進行中の動作：「(今)～しているところだ」
▶ 動作動詞：「～する」 動作(行為)を表す。run, watch, study, listen など
▶ 状態動詞：「～である、～している」 ある状態が継続していることを表す。

a. 継続的な状態を表す動詞：be, seem, have, belong, resemble など
b. 知覚・感覚を表す動詞：see, hear, feel, smell, taste など
c. 心理的状态・思考・感情を表す動詞：love, like, want, think, know など

hear listen

自然に「聞こえる」は状態、意識的に「聴く」は動作を表す。

より詳細な解説！

例文が一致！

より詳細な解説！

コラムや補足解説等がリンク！

1 現在のことを表す

1-1 現在形

現在形が表すのは現在を中心として、過去から未来へと続く幅のある時。
「これまでもそうであったし、これからもそうだ」という意味合いがあります。

過去 現在 未来

do[does]

動詞の形は原形。主語が 3 人称単数 (he / she / it など) の場合は (原形 + e)s。

2 動詞と時の表し方

b 現在の習慣：「(いつも、よく、etc.)～している」

My sister **takes** dance lessons on Fridays. 17

17 姉は(毎週)金曜日にダンスのレッスンを受けています。

▶ 現在を含んで、習慣的に繰り返し行われる動作を表す。17 では「ダンスのレッスンを受ける」という行為が、金曜日ごとに毎週繰り返されることを表す。
I **usually leave** home at eight o'clock. (私はたいてい 8 時に家を出ます。)
My brother **always eats** a banana for breakfast. (弟はいつも朝食にバナナを 1 本食べます。)

▶ 習慣を表すには、次のような副詞(句)がいっしょに使われることが多い。
on Sundays ((毎週)日曜日に), every morning (毎朝), every week (毎週),
always (いつも), usually (たいてい), often (よく), sometimes (ときどき),
etc.

2 動詞と時の表し方

● 自然に「見える」「聞こえる」は状態、意識的に「見る」「聴く」は動作。

hear listen

● 心理的状态・思考・感情を表す動詞

love (愛している), like (好きだ), hate (嫌いだ), want (ほしい), think (思う),
believe (信じる), agree (賛成する), know (知っている), understand (理解している),
remember (覚えている), forget (忘れている), etc.

I like rugby very much. (私はラグビーが大好きです。)
I remember the day clearly. (私はその日のことをはっきりと覚えています。)

注意 進行形にならない動詞の例外

① 動作を表す場合
They are having lunch at the cafe. (have = 「食べる」の意味：動作)
(彼らはカフェで、昼食をとっています。)
Meg is smelling the flower. (Meg はその花においをかぎっています。)
(smell = 「(意識して)～においをかぐ」の意味：動作)
比較 This flower smells sweet. (この花は甘いにおいがする。)(状態)
② 一時的または意識的にその状態であることを表す場合
How are you feeling now? (今、気分はどうですか。)(一時的な状態)
My brother is being polite today. (弟は、今日は礼儀正しくしています。)
● is being は be の進行形。「一時的に～(の状態)である」を表す。
I'm thinking of joining Tim's band. (原形)
(ティムのバンドに入ろうかと考えているんだ。)
③ 状態が変化しつつある場合
Elly is resembling her mother more and more. (エリーはますます母親に似てきた。)
比較 Elly resembles her mother. (エリーは母親に似ている。)

POINT

動作動詞 → 進行形にできる / 状態動詞 → 進行形にできない
● ただし、動作の意味を表したり、一時的・意識的な意味を表す場合は
状態動詞も進行形にできる。

⇒参考書シリーズにつき、詳しくは、pp.60～65 を
ご参照ください。

教科書 p.148 Basic Sentences — 基本例文一覧(巻末)

Basic Sentences — 基本例文一覧

各 Lesson の Grammar for Expressing Yourself で扱った基本例文の一覧です。各文の赤字部分は表現する上でポイントとなる箇所を表しています。また、ここでは表現のバリエーションをさらに増やすための例文(黒色の例文番号)も追加して掲載しています。暗唱できるくらいに何度も英文を繰り返し音読し、英語での表現力を鍛えましょう。

Lesson 1 ▶ 文型 pp. 10-13

1. 私たちの学校は 8 時半に始まります。 1. Our school day **begins** at 8:30.

2. ぼくの名前は田中 健です。 2. My name **is** Tanaka Ken.

3. 姉は教師になりました。 3. My sister **became** a teacher.

4. 君のトランペット、すてきだね。 4. Your trumpet **looks** nice.

教科書の巻末では、参考書の First Stage と
Second Stage の基本例文と日本語訳をもれな
く掲載しています！例文番号もすべて一致して
います！

UNIT 4 助動詞

OVERVIEW

can, may, mustなどの助動詞は、その名の通り、動詞を助ける働きをします。助動詞を加えることで、動詞に話し手の判断や気持ち(=主観)を添えることができます。

(A) He is a basketball player. (B) He **must** be a basketball player.
(彼はバスケットボール選手だ。) (彼はバスケットボール選手にちがいない。)

NAVIGATION

First Stage

1 基本的な助動詞①

can	～できる (能力・可能)	100
	～してもらえますか (許可・依頼)	102
	～でありうる、～のはずがない (可能性・否定の推量)	103
may	～してもよい (許可)	104
	～かもしれない (推量)	105
must	～しなければならない (強い義務・必要)	106
	～にちがいない (確信のある推量)	108

2 基本的な助動詞②

should

had better

will

would

3 助動詞・提 will / sh

would/could

4 その他の助動詞

used to

need

5 助動詞 + have + 過去分詞

(must/may/can't) + have + 過去分詞

(should/need/not) + have + 過去分詞

6 助動詞を使った慣用表現

UNIT はじめの導入ページです。

OVERVIEW : 文法事項の概要(イメージ)を、イラストも交え、わかりやすく解説しています。

基本ルール : 形や基本的意味など、中学の既習事項を確認できます。

助動詞の基本ルール

1 助動詞は動詞の前に置く
(助動詞 + 動詞の原形)で、助動詞の形は主語によって変化しない。
Bob **can** play the piano. (ボブはピアノが弾けます。)
(×) Bob **cans** play the piano. / (×) Bob **can** plays the piano.

2 否定文・疑問文の作り方はbe動詞の場合と同じ
否定文: (助動詞 + **not** + 動詞の原形)
Bob **cannot** (**can't**) play the piano. (ボブはピアノが弾けません。)
疑問文: (助動詞 + 主語 + 動詞の原形)
Can Bob **play** the piano? (ボブはピアノが弾けますか。)

1 基本的な助動詞① — can / may / must

1-1 can (過去形: could)

canの中心なイメージは【実現可能】。
そこから派生して、以下の意味が出てきます。

■ 実現する能力を備えている	→「～できる」	(能力)
■ 状況的に実現することが可能	→「～できる」	(可能)
■ ～である可能性がある	→「～してもらい」	(許可)
	→「～でありうる」	(可能性)

2 能力・可能を表す

Ryo **can** run 50 meters in seven seconds. (能力) 52
Can I walk to the museum from here? (可能) 53
 —Sure. It's only five minutes from here.

3 能力を表す can

主語(人やもの)があることを表す
This hall **can** hold 100 people.

否定文・疑問文(否定文) I **cannot** / **can't** ...
I **could** ...

(疑問文) Can you cook this fish?
—Yes, I **can**. I'm good at cooking.
No, I **can't**. I've never cooked fish.
(この魚を料理できますか?—はい、できます。料理は得意です。/
いいえ、できません。魚を料理したことがないのです。)

参考 : canは文末に置いたり、強調したりする場合は / kæn / だが、それ以外では / kən / と弱く発音する。

First Stage :

基礎として押さえておくべき事項や
日常的によく使う項目、入試に頻出
の事項などを扱っています。

Tips for Communication!

3 ③「～できますか」と尋ねる場合

④ 相手に「～できますか」と尋ねるときに、Can you ~? を使った、失礼な印象を与えることがあらずに尋ねることになり、失礼と感じられることがあるのです。
「英語が話せますか」は、Can you speak English? より Do you speak English? を使うほうが、やわらかい印象を与えます。次の例も同様です。
Do you (△Can you) play the piano? (ピアノを弾けますか。)

⑤ 可能を表す can :
能力とは関係なく、
表せる。\$3は距離
Can we meet
Hurry up!

⑥ be able to do
能力・可能を表す
が普通。原則とし
The students are able to use Wi-Fi in any part of the campus.
(学生はキャンパスのどこでも、Wi-Fiを使うことができます。)

Are you able to meet the deadline for the paper?—Certainly.
(論文の締め切りに関含ませることが出来ますか。—もちろんです。)

●必ずbe able toを使う場合(canが使えない場合)

① ほかの助動詞といっしょに使う場合。助動詞を2つ並べて使うことはできない。
You'll be able to order the book online in two weeks.
(×) will can (2週間後には、その本をオンラインで注文できます。)

② 完了形の場合。(have [has] + been able to do)の形を使う。
We haven't been able to access the site for the last two days.
(ここ2日間、そのサイトにアクセスすることができません。)

助動詞の意味に注意して、日本語に直そう。(※ 9 9冊 p.16)

1) Can I sit with you?—Sure.
2) Ken, hurry up. The train can't wait for you.
3) Oh, I have no money with me. Can you lend me some?

参考書：First Stage-2

● Where are you going with that large suitcase?
— Oh, I've **just returned** from a short trip to Kyoto.
(そんな大きなスーツケースを持ってどこに行くの。
— ああ、京都への小旅行から今ちょうど戻ったところなの。)
[—だから、スーツケースを持っていて]

Have you had lunch yet? — Yes, I have **already eaten** lunch.
No, (I **have**) not (eaten lunch) yet.
(もう昼食を食べましたか。— はい、もう昼食を食べました。
いいえ、まだ食べていません。)

【参考】① already や just が過去形とともに使われ、完了の意味を表すことがある。
I **already washed** the dishes. (私はもう皿を洗いました。)
He **just arrived** at the station. (彼は今駅に着いたところだ。)
現在完了形に比べるとうけた言い方で、会話でよく使われる。
② already が疑問文で使われると「もう～したのか」という意外や驚きを表す。
Have you **already spent** the money?
(「聞いて」もうお金を使ってしまったの?)

1-2 経験を表す：「(今までに)～したことがある」

● I've **visited** Kiyomizu-dera **three times**. 40
私は清水寺に3回行ったことがあります。

▶ 「～したことがある(～した経験をもっている)」という現在までの経験を表す。
40 では、「清水寺に行く」という経験が、現在までに「3回あった」ことを表している。

1 回目 2 回目 3 回目 現在

● (経験)を表す現在完了 before(今までに), ever once(1度), twice(2回), sometimes(ときどき)

Have you ever...
— No, I've **never**...
(富士山に昇るの見たことある?)

How many times(How often) has Ken **flown** in an airplane?
— (He **has** [=He's] **flown** in an airplane) **Twice before**.
(ケンは今までに何回飛行機に乗ったことがありますか。— 今までに2回です。)
● I've **been to** Kyoto **many times**. (私は京都には何度も行ったことがあります。)
● アメリカ英語ではくだけた言い方で、have(has) **gone to** ～がこの意味で使われることもあるが、イギリス英語では誤りとされるので注意。

3 動詞と時の表

注意 have been to ～の2つの意味
have been to ～は、①「～に行ったことがある(経験)のほかに
②「～に行つてどちらの意味
Aya has...
Aya has I...
このように、
な手がかりと

コラム：Tips for Writing
→英語を書く際に誤りやすい文法事項を、○×形式などで紹介しています。

Tips for Writing! 1 ● 「～したことがある」が現在完了形になるとは限らない
私は小学生のころに、その映画を見たことがある」を英語で書いてみよう。
○ I **saw** that movie **when I was an elementary school student**.
× I **have seen** that movie **when I was an elementary school student**.
▶ 「見たことがある」という日本語から、(経験)を表す現在完了形と機械的に判断してはいけません。「小学生のころ」が過去を表すことは文脈から明らか。よって、この「見た」は過去のあるときに起こり、済んでしまったことなので、現在までの経験を表す現在完了形ではなく、過去形で表すのが正しい。
→「過去形」「現在完了形」と「時」を表す副詞(句・節) (p.88)も参照しよう。

T & W

【参考】「～するの一回目は、次のように表すことができる。
This is the **first/second, third,...** time I've (ever) visited this park.
(私がこの公園を訪れるのは、これが初めて[2回目、3回目...]です
[～これが私が今までにこの公園を訪れた最初[2回目、3回目...]の時です。])

●多彩なコラム

？ ネイティブの感覚 5 「命令文=命令」とは限らない！

命令文は、相手に対して指示などをする強い表現ですが、必ずしも「命令」の意図があるわけではありません。それが使われている状況や話し手と聞き手の関係などによって、その意味合いは変わってきます。

たとえば、以下のように勧誘や助言・注意などを表す場合、初対面の人や目上の人にも命令文を用いても、失礼にはなりません。

① 相手への誘いとわかるとき (家や店に客を出迎える場合など)
Come on in. / Take a seat. (お入りください。/ おかけください。)

② 相手のためになる(と思われる)行動を勧めるとき (電車のアナウンスなど)
Change trains at the next station for Kobe. (神戸へは、次の駅でお乗り換えください。)

③ 相手に注意を促すとき (足元にご注意ください。)
Watch your step.

日本人はよく、ていねいさを出すためにpleaseをつけますが、上のような場合、その必要はありません。また、pleaseをつけても、ていねいさのニュアンスがそれほど強まるわけではない、ということも覚えておきましょう。

Second Stage

REAL ENGLISH

① 悩み相談室の助動詞

これまで学んできたように、助動詞は動詞に話し手の判断や気持ち添える。相手と自分の気持ちや考えを正しく伝えたり、依頼や助言をするときには、助動詞を正確に使い分けることがとても大切な。

以下は、あるウェブサイトの悩み相談のQ&Aである。
助動詞をどのように使い分けているだろうか。

Dear Ms. WebMom,
● I have a serious problem. ● I'm on the basketball team and I enjoy playing basketball, but I **cannot** focus on my studies. ● My "g" grades are falling and my parents say I **must** quit the team. ● What **should** I do? ● **Could** you give me some good advice?
K.M.

● ウェブママさんへ
● 私は深刻な問題を抱えています。● 私はバスケットボール部に所属していて、バスケットボールをするのは楽しんでいるのですが、勉強は集中できません。● 成績は下がっており、両親は退部を求めています。● どうすればいいのでしょうか。● どのようにアドバイスをお願いできますでしょうか。
*focus on ～(～に集中する) grade(成績)

▶▶▶ 注目ポイント
● my parents say I **must** quit the team
⇒ **must** 「～しなければならない」が使われていることで、(退部の選択が)なくらい強く「やめなさい」と言われていることがわかる。
● What **should** I do? 「私はどうすればいいですか」
⇒ 悩みの相談や指示を仰ぐときに使う。
● **Could** you give me ~? ~

コラム：REAL ENGLISH

→看板や広告、ウェブサイトなど、日常で実際に使われている英語の例を、その章で扱われる文法事項とからめて紹介しています。

参考書：Second Stage

Second Stage：

やや発展的ですが、知っておきたい項目を扱っています。

7 should のその他の用法

shouldの中心的なイメージは「**当然進むべき方向**」です。
そこから派生する意味は、「当然そうすべきである」(義務)
「当然そのはずだ」(推量)
ここでも、このイメージと関連づけて学んでいきましょう。

a that 節中で使われる should
The chairperson **suggested** we **should** have another meeting next week. 91
It is **necessary** that Mr. Bush **should** have an operation. 92
It is **surprising** that she **should** know nothing about the plan. 93

91 議長は翌週また会議をすることを提案した。
92 ブッシュ氏は手術を受けることが必要です。
93 彼女がその計画のことを何も知らないのに驚きました。

● 提案・要求などを表す動詞に続く that 節中で (⇒91)
▶ 「～するように(提案する、要求する)」といった意味を表す。提案・要求などを表す動詞との結びつきから「当然そうすべきだ」という意味合いを含む。
● 提案・要求などを表す動詞
suggest/propose(提案する), demand/request(要求する), order(命令する), recommend(勧める), advise(忠告する), etc.
He **demand**ed that the bus driver **should** apologize for his rudeness. (彼はバス運転手に、失礼をわびるよう求めた。)
▶ **should** を省略して、動詞の原形を使うことも多い。主語が3人称単数でも原形になる。(p.340)
The doctor **recommended** that my mother **cut down** on sugar. (医師は母に糖分を減らすように勧めた。)

【参考】上の枠内に掲げた動詞でも、提案・要求以外の意味の場合は、that 節中で should や動詞の原形を使わなくてよい。
I'm not suggesting (that) you are responsible for the accident. (その事故の責任があなたにある、と言っているわけではありません。)

Second Stage

that 節中に続く that 節中で (⇒92)

▶ 「～する(ことが必要だ)」といった意味を表す。必要性・重要性などを表す形容詞との結びつきから「当然そうすべきである」という意味合いを含む。
● 必要性・重要性などを表す形容詞
necessary(必要な), important(重要な), essential(不可欠な), urgent(緊急の), desirable(望ましい), proper(適切な), etc.
It's **important** that you **should** speak clearly in an interview. (面接では、ハキハキと話すことが重要です。)
▶ **should** は省略して、動詞の原形を使うことも多い。
92 → It is **necessary** that Mr. Bush **have** an operation.

【参考】(米)では原形。(英)では(should+原形)が普通であったが、最近では(米)でも(should+原形)。(英)でも原形が使われるようになっており、(米)の差はあまりないと考えてよい。

● 感情や主観的判断などを表す形容詞・名詞に続く that 節中で (⇒93)
▶ この should には、「～だ[～する]なんて」という意外や疑いの気持ちが含まれている。
● 感情や主観的判断などを表す形容詞・名詞
strange(奇妙な), surprising/amazing(驚くべき), lucky/fortunate(幸運な), unlucky/unfortunate(不運な), natural(当然の), a pity/a shame(残念な), etc.
It's **a pity** that Emily **should** be unable to come to tomorrow's party. (エミリーが明日のパーティーに来られないなんて残念だ。)
It's **natural** that you **should** be nervous in front of a lot of people. (大人数の前であなたが緊張するのは当然です。)
▶ 「～だなんて」といった感情を伴わず、客観的事実として言う場合、**should** は使わない。また、この②の用法で動詞の原形は使わない。
93 → It is **surprising** that she **knows** (×know) nothing about the plan. (彼女がその計画のことを何も知らないのは驚きだ。)

【参考】「～したなんて」と過去(あるいは過去より前)のことについて述べる場合は、(should+have+過去分詞)で表す。
It was **unfortunate** that my brother **should have broken** his leg. (兄が骨を骨折したとは運が悪かった。)

〈参考書 別冊付録〉4 技能連携ハンドブック

■ A5 判(80 頁)

(収録内容)

〈基礎文法編〉：英語の語順／英語をつくる部品一品詞と句・節

〈Speaking／Listening 編〉：英語の発音を学ぼう／場面に合った表現を使おう(フォーマル・インフォーマル)／機能別表現リスト など

〈Reading／Writing 編〉：パラグラフの構成・展開パターン／英語の発想で文を書く／英語の句読法／手紙・メールの書き方 など

基礎文法

1 英語の語順

2 英語の部品

3 英語の句・節

4 英語の文

5 英語の語彙

6 英語の文法

7 英語の表現

8 英語の文法

9 英語の表現

10 英語の文法

11 英語の表現

12 英語の文法

13 英語の表現

14 英語の文法

15 英語の表現

16 英語の文法

17 英語の表現

18 英語の文法

19 英語の表現

20 英語の文法

21 英語の表現

22 英語の文法

23 英語の表現

24 英語の文法

25 英語の表現

26 英語の文法

27 英語の表現

28 英語の文法

29 英語の表現

30 英語の文法

31 英語の表現

32 英語の文法

33 英語の表現

34 英語の文法

35 英語の表現

36 英語の文法

37 英語の表現

38 英語の文法

39 英語の表現

40 英語の文法

41 英語の表現

42 英語の文法

43 英語の表現

44 英語の文法

45 英語の表現

46 英語の文法

47 英語の表現

48 英語の文法

49 英語の表現

50 英語の文法

51 英語の表現

52 英語の文法

53 英語の表現

54 英語の文法

55 英語の表現

56 英語の文法

57 英語の表現

58 英語の文法

59 英語の表現

60 英語の文法

61 英語の表現

62 英語の文法

63 英語の表現

64 英語の文法

65 英語の表現

66 英語の文法

67 英語の表現

68 英語の文法

69 英語の表現

70 英語の文法

71 英語の表現

72 英語の文法

73 英語の表現

74 英語の文法

75 英語の表現

76 英語の文法

77 英語の表現

78 英語の文法

79 英語の表現

80 英語の文法

Speaking / Listening

1 英語の発音

2 英語の発音

3 英語の発音

4 英語の発音

5 英語の発音

6 英語の発音

7 英語の発音

8 英語の発音

9 英語の発音

10 英語の発音

11 英語の発音

12 英語の発音

13 英語の発音

14 英語の発音

15 英語の発音

16 英語の発音

17 英語の発音

18 英語の発音

19 英語の発音

20 英語の発音

21 英語の発音

22 英語の発音

23 英語の発音

24 英語の発音

25 英語の発音

26 英語の発音

27 英語の発音

28 英語の発音

29 英語の発音

30 英語の発音

31 英語の発音

32 英語の発音

33 英語の発音

34 英語の発音

35 英語の発音

36 英語の発音

37 英語の発音

38 英語の発音

39 英語の発音

40 英語の発音

41 英語の発音

42 英語の発音

43 英語の発音

44 英語の発音

45 英語の発音

46 英語の発音

47 英語の発音

48 英語の発音

49 英語の発音

50 英語の発音

51 英語の発音

52 英語の発音

53 英語の発音

54 英語の発音

55 英語の発音

56 英語の発音

57 英語の発音

58 英語の発音

59 英語の発音

60 英語の発音

61 英語の発音

62 英語の発音

63 英語の発音

64 英語の発音

65 英語の発音

66 英語の発音

67 英語の発音

68 英語の発音

69 英語の発音

70 英語の発音

71 英語の発音

72 英語の発音

73 英語の発音

74 英語の発音

75 英語の発音

76 英語の発音

77 英語の発音

78 英語の発音

79 英語の発音

80 英語の発音

Reading / Writing

1 フォーメーション・リーディング

2 フォーメーション・リーディング

3 フォーメーション・リーディング

4 フォーメーション・リーディング

5 フォーメーション・リーディング

6 フォーメーション・リーディング

7 フォーメーション・リーディング

8 フォーメーション・リーディング

9 フォーメーション・リーディング

10 フォーメーション・リーディング

11 フォーメーション・リーディング

12 フォーメーション・リーディング

13 フォーメーション・リーディング

14 フォーメーション・リーディング

15 フォーメーション・リーディング

16 フォーメーション・リーディング

17 フォーメーション・リーディング

18 フォーメーション・リーディング

19 フォーメーション・リーディング

20 フォーメーション・リーディング

21 フォーメーション・リーディング

22 フォーメーション・リーディング

23 フォーメーション・リーディング

24 フォーメーション・リーディング

25 フォーメーション・リーディング

26 フォーメーション・リーディング

27 フォーメーション・リーディング

28 フォーメーション・リーディング

29 フォーメーション・リーディング

30 フォーメーション・リーディング

31 フォーメーション・リーディング

32 フォーメーション・リーディング

33 フォーメーション・リーディング

34 フォーメーション・リーディング

35 フォーメーション・リーディング

36 フォーメーション・リーディング

37 フォーメーション・リーディング

38 フォーメーション・リーディング

39 フォーメーション・リーディング

40 フォーメーション・リーディング

41 フォーメーション・リーディング

42 フォーメーション・リーディング

43 フォーメーション・リーディング

44 フォーメーション・リーディング

45 フォーメーション・リーディング

46 フォーメーション・リーディング

47 フォーメーション・リーディング

48 フォーメーション・リーディング

49 フォーメーション・リーディング

50 フォーメーション・リーディング

51 フォーメーション・リーディング

52 フォーメーション・リーディング

53 フォーメーション・リーディング

54 フォーメーション・リーディング

55 フォーメーション・リーディング

56 フォーメーション・リーディング

57 フォーメーション・リーディング

58 フォーメーション・リーディング

59 フォーメーション・リーディング

60 フォーメーション・リーディング

61 フォーメーション・リーディング

62 フォーメーション・リーディング

63 フォーメーション・リーディング

64 フォーメーション・リーディング

65 フォーメーション・リーディング

66 フォーメーション・リーディング

67 フォーメーション・リーディング

68 フォーメーション・リーディング

69 フォーメーション・リーディング

70 フォーメーション・リーディング

71 フォーメーション・リーディング

72 フォーメーション・リーディング

73 フォーメーション・リーディング

74 フォーメーション・リーディング

75 フォーメーション・リーディング

76 フォーメーション・リーディング

77 フォーメーション・リーディング

78 フォーメーション・リーディング

79 フォーメーション・リーディング

80 フォーメーション・リーディング

授業や日常学習で、気軽に開いていただけるハンドブックです。